

小学校プログラミング教育実施レポート

令和2年度から必修化された小学校プログラミング教育の実施の様子を紹介するものです。
未来の学びコンソーシアムにて実施内容の精査を行うものではありません。

学習活動名	偶数と奇数、倍数と約数（算数）
学年	小学校第5学年
目標	偶数、奇数の意味や性質、整数は偶数と奇数に類別できることを理解する。
教材タイプ	ビジュアル言語
使用教材	Scratch
環境	児童2人で1台の端末を利用
都道府県	埼玉県
実施校	戸田市立新曾北小学校
学習活動の概要・児童の様子（プログラミングの活動を中心に記載ください。）	<p>1 「偶数」「奇数」の意味を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none">・数を2でわった時に、割り切れたら「偶数」余りが出たら「奇数」であることを確認する。 <p>2 課題をつかむ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">偶数と奇数を表示するプログラムをつくろう</div> <p>3 偶数を表示するプログラムをつくる</p> <ul style="list-style-type: none">・一番小さな数が「0」であること、2で割り、割り切れたら「偶数」だということをプログラミングで表現するようにする。 <p>4 奇数を表示するプログラムをつくる</p> <ul style="list-style-type: none">・偶数と奇数の違いは2で割ると「割り切れるか」「余りが1になるか」であることを確認し、そこだけ変更すると奇数を表示するプログラムをつくれることを確認させる。 <p>5 まとめをする。</p>
成果と課題	○事前に市のテキストを活用してScratchの基礎的な操作について学習をしておくことでスムーズに教科学習でもプログラミングを行うことができた。

